



小中一貫教育だより
 学校教育課・教育センター版
 令和8年8月5日 No.55
 (小中一貫教育推進だよりから 通算No.125)
 十日町市教育委員会学校教育課



中条笹山じょうもん市への小・中学生の参加（6月7日）写真の説明 10 ページ

巻頭言 『言葉のチカラ』

学校教育課 学事係長 星野 直子

今年度、学校教育課に異動してまいりました星野直子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私には、忘れられない言葉があります。それは25年ほど前、上司からの言葉です。「母親になり、仕事との両立は大変だと思うけれど、自身の人生を振り返ると、一番充実している時だったと言える。頑張るんだぞ。」という励ましの言葉でした。

当時の私は、一人目の子供を出産し、育児休暇から仕事復帰して間もない時でした。目の前の仕事と育児で慌ただしい日々を送っていた私にとって、人生なんて壮大でピンとこない言葉でした。

しかし、この言葉は、この後何度も私を救ってくれたのです。仕事と家庭の両立で、私がピンチ！と思う時に、ふっと頭に浮かび「私は今、人生で一番充実している真っ最中なんだ。何とか頑張ってみよう！」と前向きにしてくれました。何度もこの言葉に励まされ、困難を乗り越えるチカラを与えてくれました。

相手を思いやり、気持ちが込められた言葉には、人を励まし、前向きにするチカラがあるのだと思います。

家庭や職場、社会の様々な場面で、人と人との繋がりを大切にする第一歩として、優しい言葉、温かい言葉のチカラを大切にしていきたいと思います。

小中一貫教育

■ 吉田中学校区のいじめ見逃しゼロスクール集会に学ぶ

6月5日(金)に吉田中学校を会場にいじめ見逃しゼロスクール集会が行われました。吉田中学校の全校生徒(35人)と吉田小学校・鑑島小学校の5・6年生(20人)が8つの縦割り班(6～7人)でアイスブレイキングや事例についての意見交流を行いました。

はじめに吉田小学校の児童が、「キャッチ」という活動の進行をしました。グループごとに円形に並び、右手の親指と人差し指で輪を作り、左手の人差し指を左隣の人の輪に差し込みます。進行役が「キャッチ」と言ったら、左手の輪を締めて隣の人の人差し指を挟み、右手の人差し指を抜こうとします。活動をする中で指が触れ合い緊張感がほぐれ、思わず笑顔があふれます。

次に鑑島小学校の児童がしりとりでの進行をしました。3分間行って最後の人が「自分の学校、学年、名前、十日町の好きなこと」を言うゲームです。子どもは十日町の好きなことってどんなことを言うのだろうか、と思って聴いていると、豊かな自然、田園風景のことや米やそば、笹団子などの食べ物があがりました。



アイスブレイキングで驚いたのは、グループごとの自己紹介なしに活動が始まったことと発表者が聞いている人たちの方を向いて聞こえる声で話していたことです。吉田中学校区ではちんころ作りや川柳づくりなど低学年の頃から小中学生の交流が活発に行われているからなんだろうな、と思いました。

休憩後、3つの教室でいじめ事例についての話し合い活動を行いました。事例は中学生がロイロノートで作って説明しました。

事例1は、仲のよいAとBがいて、Aは勉強がよくでき100点をとります。Bは「Aはすごいよね」と他の友達にAの自慢をします。自分が100点をとったことをみんなが知っているのはBが話したからだと思ったAは、Bを問い詰め泣かせてしまいます。

まず「AとBの行動でいけなかったのは?」、次に「この事態を防ぐためにAとBが考えることができた『かもしれない』を考えよう。」の問いに対する自分の考えを紙に書きます。全員がかなりの量の内容を書き込み、その後発表し合います。この時間き手は頷きながら「うんうん・・・」「確かに・・・」など肯定的な態度で聞き合っていました。はずかしそうに紙を隠す児童生徒はいません。心理的な安全がある上での活動であることが感じられました。

事例2は、仲のよいCとDが普段から電話やSNSでやりとりをしています。Cはネット上でDが興味をもちそうな記事を見つけるとすぐにDに知らせたくなり、深夜にもかかわらずDに電話をかけます。CからDへの深夜の電話は連日続き、Dは寝不足となって集中力が続かず、テストで0点をとってしまいます。CはDを励まそうと思って電話を掛けますが、DはCに冷たい態度をとり、Cは泣き出してしまいます。

話合いでは「毎日深夜に電話をしてくる相手にはブロック（着信拒否設定）すればいいんじゃないか。」と話す小学生に頷きながらも「ブロックされたCの気持ちも考えた方がいいんじゃない？」と返す中学生の言葉がいいなと思いました。

感想発表では、「相手のことを考えて、してしまったらどうなるか考えることができた。」（小学生）や「自分と違う視点の意見を聞くことができた。『かもしれない』を普段の学校生活でも考えていきたい。」（中学生）という声を聞くことができました。

3つの教室には各校の校長先生がいて、子どもたちの学びを講評してくれました。「人は自分とは違うことを考えているかもしれない。」「何気ないことが人を傷つけているかもしれない。」など「かもしれない」をキーワードとして相手の気持ちを考えて話合いをしている子どもたちの姿を価値づけていました。

参観して感じたことが二つあります。一つ目は、心理的安全性が確保されていることが気持ちを交流する話合いには欠かせないということです。これは日常の授業での話合いでもいえることです。

二つ目は、気持ちを交流し易い環境が大切だということです。体育館のような広い場はアイスブレイキングのような活「動には適していますが、じっくりと話を聞き合い考えを深めるには、教室のようにある程度静かで落ち着いた環境が必要です。1教室に3グループ以内で実施した吉田中学校区ではそうした環境を整える工夫を感じました。



■ 令和8年度第1回小中一貫教育推進協議会から

6月22日（月）に今年度第1回小中一貫教育推進協議会を開催しました。この協議会の目的は十日町市小中一貫教育推進協議会設置要綱に次のように記載されています。

第1条 この告示は、十日町市小中一貫教育推進協議会（以下「協議会」という。）を設置することにより、小中一貫教育の運営を推進することを目的とする。

第2条 協議会の所掌事項は、小中一貫教育に関する課題を摘出し、改善に向けて十日町市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に提案することとする。

学識経験者として新潟大学の雲尾周教授を、各中学校区から委員を一人ずつの委員(校長、統括コーディネーター、校内コーディネーター、養護教諭、PTA代表のいずれか)を委嘱するようにしています。他に地域代表として保育園長を二人委嘱しました。学校教育の重点や小中一貫教育基本計画に幼保小の連携を加え、子どものライフステージが幼児期から中学校卒業やその先へと連続していることをより一層意識して小中一貫教育を推進するためです。委員のみなさんです(敬称略)。

区 分	氏 名	所 属 職 名 等 (備考)
学識経験者	雲尾 周	新潟大学教授 (大学院現代社会文化研究科)
十日町市立学校の教職員	小島美和子	下条小学校長 (下条中学校区)
	八重沢 央	中里中学校長 (中里中学校区)
	笠野 恭子	松代中学校教頭 (松代中学校区) ※統括コーディネーター
	石沢 和也	水沢中学校教諭 (水沢中学校区) ※統括コーディネーター
	佐藤 政幸	中条中学校教諭 (拡大中学校区) ※統括コーディネーター
	丸山 祐香	上野小学校教諭 (川西中学校区) ※校内コーディネーター
	小林 浩子	ふれあいの丘支援学校校長 (ふれあいの丘支援学校)
	福島 理恵	吉田小学校養護教諭 (吉田中学校区)
保護者の代表	高橋 祐司	まつのやま学園PTA副会長 (松之山中学校区)
	蕪木 良太	南中学校PTA会長 (南中学校区)
地域住民の代表	藤木佐知子	鑑島保育園長
	大熊 信明	中里なかよし保育園長

今回は「令和8年度実施計画を具現する方策(3つのつながり)について幼保小中の連続性を軸に学校や子ども・地域の状況や話し合い、今後の指導・助言に生かす内容を抽出すること」をテーマとしてグループ協議を行いました。

この協議では、主に幼保・小・中学校の「つながり」や連携の現状と課題について意見交換が行われました。

小学校教員が子ども園を参観する取組が復活し、園児の様子や保育の意図を理解する機会を設けていたり、参観後に保育のねらいなどを共有するカンファレンスの実施を検討したりしていること、保育園・こども園と小学校の相互訪問や地域行事を通じた交流が行われている具体例が話し合われました。



地域行事を通じて、小中学生の交流が活発に行われている地区や小中学校の交流が伝統的に盛んで、修学旅行やスポーツテストなどを共同で実施している地域もありました。

中学校が幼保小の連携に関わりにくいことや、PTA 活動への参加者拡大が課題として挙げられました。解決策として、情報発信や共有を充実させ、人と人をつなぐ「パイプ役」を増やすことの重要性や異学年交流や異校種間交流によって、子どもたちの成長や学校間のギャップ解消を図る必要性などが指摘されました。

コミュニケーション能力の育成を幼保小中で一貫して進めることが重要な課題としてあげられました。幼保小中の連携や地域との交流をさらに深め、情報共有とコミュニケーション能力の育成を軸に、子どもの成長を切れ目なく支える仕組みづくりが重要であることが確認された協議でした。

雲尾委員からは、幼保小中の円滑な接続において最も重要なのは、「前段階の教育の良さを生かしながら次の段階へつなぐこと」であると指摘されました。

1. 幼保から小学校への接続

幼稚園・保育所は、小学校に向けて 45 分授業に耐える訓練をするのではなく、主体性や自己表現力、コミュニケーション能力の基礎を育てることを大切にすべきである。

小学校側はスタートカリキュラムを充実させ、子どもが興味・関心を生かしながら学校生活に適應できる環境を整えることが重要である。

2. 小学校から中学校への接続

中学校への移行時の「中 1 ギャップ」を緩和するため、小学校高学年から部分的な教科担任制を導入することが有効である。教科担任制は子どもの適應を促すだけでなく、教員の指導力向上にもつながる。

3. 小小交流・異校種交流の意義

小規模校同士の修学旅行や交流活動は、中学校進学時の人間関係づくりに役立つ。

異学年・異校種交流では、年上の児童生徒が年下の子どもに認められることで自己肯定感や自己有用感が高まる効果がある。

4. 教職員同士の連携

小規模校でも中学校区全体を一つの学年部として捉え、教員同士が情報交換や協働を行うことで教育の質向上が期待できる。

5. PTA・家庭との連携

メディア利用や睡眠習慣（眠育）は、小中で一貫した方針のもとで取り組む必要がある。スマートフォン依存を防ぐためには、小さい頃から「食事中はスマホを使わない」など家庭内ルールを大人も含めて徹底することが重要である。

6. 地域との協働

学校・家庭・地域が連携し、それぞれの地域の良さや伝統を生かしながら小中一貫教育を推進することが望ましい。

本日の協議では、子どもの成長段階ごとの特性を尊重しながら、幼保・小学校・中学校・家庭・地域が相互理解と連携を深めることで、主体性や自己肯定感を育み、切れ目のない教育環境を実現することが重要であるとまとめてくれました。

教育相談班より

子どもの状況や実態に応じて、
「1・1・1運動」をお願いします！

■「不登校・いじめの減少」に向けて

□子どもとともに1・2・3運動の実践をお願いします！

不登校への初期対応として「子どもとともに1・2・3運動」をお願いします。

欠席1日目：欠席家庭に連絡し、保護者または本人から状況を聞く。

2日目：児童生徒の具体的な状況を電話等により把握する。

3日目：家庭訪問を実施し、保護者または本人と面談する。

□認知したいじめの解消に向け、見守り活動を継続していますか？

いじめは単に謝罪をもって安易に解消とすることはできません。いじめが「解消している」状態とは、少なくとも次の2つの要件が満たされている必要があります。

① いじめに係る行為が止んでいる状態が相当の期間継続していること

→ 少なくとも3か月を目安とする。

② 被害児童生徒が心身の苦痛を感じていない状態になっていること

→ 被害児童生徒及び保護者に面談等で確認する。

※ 学校は再発防止に向け、**継続的な見守り**をお願いします。

■「特別支援教育の充実」に向けて

□特別支援学級に在籍する児童生徒の「特別支援学級の授業時数」は守られていますか？

特別支援学級

障がいのある児童生徒が、年間を通じてその学級において活動することを前提として編制され、障がいに応じた指導が行われるもの。

交流及び共同学習

障がいのある児童生徒の交流先の学級での活動を特別支援学級担任がサポートするなど、適切な指導体制を整えられる範囲で実施される必要がある。

これらを総合的に勘案し、**原則として、特別支援学級においては、週の授業時数の半分以上の授業を行うことが目安**とされています。

□「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用していますか？

個別の教育支援計画

障がいのある児童生徒等一人一人の教育的ニーズを踏まえ、長期的な視点で幼児期から学校卒業時までを通じて、一貫した支援を行うことを目的として作成。

個別の指導計画

個々の児童生徒の実態に応じた適切な指導を行うため、多様な学びの場で編成されている教育課程を具体化し、指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、適切かつきめ細かに指導することを目的として作成。

「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」は、以下の場合に作成・活用が求められています。**保護者面談を通じて見直しながら活用**を進めてください。

◆ 特別支援学校に在学する児童生徒・・・作成・活用の**義務**

◆ 特別支援学級に在籍する児童生徒・・・作成・活用の**義務**

◆ 通常の学級に在籍しながら通級による指導を受ける児童生徒・・・作成・活用の**義務**

◆ 通常の学級に在籍している障がいのある児童生徒（通級指導は受けていない）・・・作成・活用に**努める**

学習指導班より

幼保小連携事業

第2回幼保小連携研修会 松代小学校・まつだい保育園

7月22日（水）松代小学校において、第2回幼保小連携研修会を行いました。松代小学校とまつだい保育園は、令和8年度幼保小連携事業のモデル校園に指定しています。十日町市内の小学校、特別支援学校、こども園、幼稚園、保育園の先生方、50名を超える参加があり、まつだい保育園の園児と松代小学校の児童が交流する児童会夏祭りを参観しました。

以下の5つのお店が開かれ、半数の子どもたちがお店番をし、半数の子どもたちがお店を回るという交代方式で行いました。お店を一つ保育園が担当すること、縦割り班に園児が1～2名入り、一緒に店回りをすることが、見所となっていました

フラフープゴール（5班・7班）	多目的室
射的（保育園）	1年生教室
連想ゲーム（2班・3班）	3年生教室
宝探し（4班・8班）	図工室
魚釣りゲーム（1班・6班）	5年生教室

保育園のお店は、4月からの生活の中で起きた出来事から、園児がアイデアを出し合って完成したものです。

○カナヘビの飼育 → 段ボールで作った口を開けた的に

餌探しからカエルも捕まえる → 的の邪魔をするカエルに

○壊れたままごとの手作りトング → パチンコ遊び 的当ての発射台に

○サークルタイムで相談

- ・コインを入れてガチャガチャをし、新聞紙で作ったえさをもらう。
- ・的の邪魔をするカエルは、えさが当たったら10秒間倒れる。
- ・休憩所を作り、チョコバナナとアイス、わたあめをお客さんに出す。

（わたあめのわたしは、飼育していた蚕が出した糸が原料）

○遊んでいるうちに、カエルになって邪魔する方が楽しくなり、ゲームの名前が「カエルぴょんぴょんゲーム」になる。

保育園児も小学生もこのお店で思う存分楽しんでいました。

現1年生は、昨年同じ活動を初めて行った子どもたちで、今回の児童会祭りに向けても、昨年のことを思い出し、活動にスムーズに入っていたそうです。すぐに「保育園児を呼んで楽しもう」という意見が出ました。前日には、保育園児を招待して、お店の紹介をしたり、1年生教室でお店の準備も手伝ったりしました。



振り返りの作文には、お兄さんお姉さんとして、明日は保育園の子どもたちが楽しんでくれるようにという願いと園児のお世話をしたいという思いが書かれていました。

松代小学校の子どもたちは、小さい子どもたちへの対応がとても自然で、普段から交流をしている姿があらゆるところで見えていました。

小学生の振り返り場面では、「〇〇のお店が～の工夫をしていてとても楽しかった」「保育園の子にやさしくできた」など、いい振り返りの言葉が出ていました。

全体会では、小学校と保育園から経緯の説明と本時の振り返りがあり、参加者は小学校と園とのつながりを理解することができました。

県の架け橋センターから高橋・金平指導主事を迎え、ご指導いただきました。

金平指導主事からは、当日の子どもの姿や学校の取組を評価いただきました。保育園のお店は、春からの遊びの経験を生かしたものであり、小学校の学びにつながる要素がたくさんあったことをまとめていただきました。また、1年生の教室環境や廊下の全校自学の紹介などの素晴らしさを指摘いただきました。

高橋指導主事からは、園からの変化に対する1年生が感じる困り感について、詳しく説明がありました。遊び中心の生活が勉強になること、全てサイズが大きくなる環境の変化などで、大きなストレスがかかっていることを力説されました。そして、このギャップをなくすために、授業参観、体験授業、学校行事見学などを行い、ギャップを埋めることが必要であることが紹介されました。また、園を見る際には、何の教科につながっているのかを、学校を見る際には、どんな遊びや活動が小学校の教科に生きるのかを観点として見ることを進めてくださいました。この見方が授業改善、保育改善につながるということがわかりました。

他にも今年度は、各小学校区で情報交換会が行われています。多園から1小学校に行くパターンの学校では、全ての保育所に声をかけることは大変ですが、これをやることで、お互いの活動の理解につながっています。園の方からすると、不安感をもって小学校にあげた子どもたちが、どうなっているかを早いうちに見たいという声があり、子どもたちの姿を見て安心したと感想をもらす方がたくさんいらっしゃいます。小学校からすると、こんなことまで園でやっているのかと、園の活動について驚きを感じている先生方が多かったです。これからも、無理することなく、持続可能な交流や情報交換会をすることで、スムーズな接続を実現したいと思っています。

8月21日（金）には、第3回幼保小連携研修会が開かれます。「遊びから学びへ～スムーズな幼保小接続のポイント～」というテーマで、パネルディスカッションを行います。松代小・保育園の実践ビデオや普段の様子、他の保育園の様子から、認知能力と非認知能力をどう育てていけばよいのか、どうつなげていけばよいのかを考えます。今まで幼保小の連携研修会に参加していない方々もぜひ参加ください。たくさんの方々のおいでをお待ちしております。

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～8・9月～

日 時	内 容 ・ 会 場	備 考（対象等）
8 月 5 日（水）	特別支援教育コーディネーター養成講座 川西庁舎 4 階 第 1 研修室	講師 上越市教育委員会 指導主事 引場 陽子 様 対象 特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担任
8 月 5 日（水）	教頭・事務職員合同研修 千手中央コミュニティセンター 川西庁舎 1 階 地域活動室	対象 郡市内小中学校の教頭及び事務職員
8 月 21 日（金）	キャリアアップミニ講座① 「学級経営」 川西庁舎 4 階 第 1 研修室	講師 中里中学校 校長 八重沢 央 様 対象 サポート訪問研修受講者 ＋希望者
8 月 21 日（金）	幼保小連携実践発表 千手中央コミュニティセンター	対象 幼保小連携関係者全員 実践発表とパネルディスカッション
8 月 21 日（金）	初任者研修ボランティア体験研修 森の学校キョロロ	対象 初任者悉皆研修
8 月 21 日（金）	イングリッシュキャンプ 千手中央コミュニティセンター	対象 小学校 5・6 年生の希望者 46 名
8 月 24 日（月）	キャリアアップ研修ミニ講座② 「学級経営」 川西庁舎 4 階 第 1 研修室	講師 中里中学校 校長 八重沢 央 様 対象 サポート訪問研修受講者 ＋希望者
8 月 24 日（月）	特別支援教育研修講座 基礎講座 「発達障害について」 千手中央コミュニティセンター	講師 和歌山大学 名誉教授 武田 鉄郎 様 対象 すべての教職員 (各校 1 名以上)
9 月 29 日（火）	居心地のよい学級づくり・学力向上推進会議 川西庁舎 4 階 第 1 研修室	対象 研究主任または「居心地のよい学級づくり」校内推進員

【表紙写真の説明】

中条地区では、笹山遺跡出土の土器群が国宝に指定されたことを記念して、毎年「笹山じょうもん市」という地域を挙げてのイベントを行っています。今年は6月7日（日）に行われました。このイベントには中条小学校は全校児童が、中条中学校はボランティア希望の生徒も参加し、様々な活動を披露しています。

小学生は全員で校歌と児童会歌を斉唱し、地域の舞踊「大の坂」を踊りました。会場にいた多くの人々は中条小学校の卒業生でもあり、なつかしい校歌を口ずさむ様子もみられました。「大の坂」には保護者や地域の方も参加して盛り上がりました。

中学生は、吹奏楽部の演奏に始まり、縄文クイズスタンプラリーとビンゴ大会を主催しました。縄文クイズスタンプラリーは、会場内にいくつかのクイズブースがあり、中学生が出題者となって縄文時代に関するクイズに参加者が答えていきます。クイズの出し方や説明の仕方が上手だなあと感じました。

ビンゴ大会では、中学生の運営や進行の見事さに驚きました。参加者を笑顔にさせる軽妙な語りや自らも楽しもうとする姿勢が参加していたみんなに伝わりました。ビンゴとなって景品をもらう人へのインタビューの仕方も祝う気持ちや細やかな配慮が感じられました。

小中学生の多くがスタンプラリーやビンゴ大会にも参加して、地域の人々のブースでも交流を楽しんでいました。

じょうもん市を主催する地域支援員はお便りの中で次のように書いています。「スタンプラリーを通じて地域の歴史や文化に触れるだけでなく、中学生と小学生が自然に言葉を交わす場面も見られました。学校や学年を超えた交流は地域の中で育つ子どもたち同士のつながりを深める機会となりました。地域行事の中で中学生が主体的に関り、小学生がそれに続く姿は『これからの地域活動を支える次世代の担い手の育成』という点でも大きな意味があったと感じています。」

小学校6年生の感想文の中には「来年は中学生ボランティアとして参加したいです。」という内容がたくさんありました。とても温かい気持ちになりました。